第１回　鹿島灘海浜公園拠点化推進検討委員会

議事次第

日　時：令和８年８月 27 日（木）10 時から

場　所：鉾田市役所　福祉事務所２階　会議室

１　開会

２　委嘱状交付

３　市長あいさつ

４　委員長あいさつ

５　議事

（１）説明事項

ア　委員会の進め方

イ　現在の状況

ウ　これまでの検討の経緯

エ　道の駅の概要

（２）協議事項

ア　「道の駅」の基本計画コンセプト

イ　鉾田市にふさわしい「道の駅」のあり方

６　その他

７　閉会

【配布資料】

資　料　１：鹿島灘海浜公園拠点化推進検討委員会 設置要綱

資　料　２：鹿島灘海浜公園拠点化推進検討委員会 委員会名簿

資　料　３：鹿島灘海浜公園拠点化推進検討委員会 委員会資料

資料1

鹿島灘海浜公園拠点化推進検討委員会設置に関する要綱

（設置）

第１条　鹿島灘海浜公園における拠点化の推進に向け、関係者の多様な観点から意見を聴取するため、鹿島灘海浜公園拠点化推進検討委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　委員会は、市長の要請に応じ、次に掲げる事項について調査及び検討し、その結果を市長へ報告するものとする。

（１）鹿島灘海浜公園拠点化事業における道の駅の基本計画策定に関すること。

（２）鹿島灘海浜公園拠点化事業における道の駅の整備・運営に関すること。

（３）前２号に掲げるもののほか、鹿島灘海浜公園拠点化のために必要な事項に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、委員 16 人以内で組織する。

２　委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

（１）道の駅に関して識見を有する者

（２）市議会議員

（３）関係機関の役職員

（４）アドバイザー

（５）関係地区の代表者

（６）市職員

（７）その他市長が必要と認める者

（任期）

第４条　委員の任期は、委嘱又は任命の日から２年とする。ただし、前条第２項第２号に規定する者で、当該委嘱により任命されたものが当該職を離れたときは委員の職を失うものとし、委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第５条　委員会に、委員長及び副委員長を置く。

２　委員長は、第３条第２項第１号の委員とする。

３　副委員長は、委員長が指名する者とする。

４　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

５　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第６条　会議は、委員長が必要に応じて招集し、その議長となる。

２　委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

４　委員長は、会議に必要があると認めるときは、委員以外の者に出席を求め、その説明若しくは意見を聴き、又は必要な書類の提出を求めることができる。

（守秘義務）

第７条　委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。また、その職を退いた後も同様とする。

（庶務）

第８条　委員会の庶務は、建設部都市計画課鹿島灘海浜公園拠点化推進室において処理する。

（その他）

第９条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この要綱は、令和８年７月 31 日から施行する。

鹿島灘海浜公園拠点化推進検討委員会　名簿

資料2

【　委　員　】

No.	所属及び役職名	氏名
1	筑波大学 システム情報系 社会工学域 教授	岡本　直久
2	鉾田市議会　経済建設常任委員会委員長	土子　勝也
3	鉾田市議会　経済建設常任委員会副委員長	羽成　洋一
4	ほこた農業協同組合　トータルサポート室長	石井　勉幸
5	茨城旭村農業協同組合 管理課長	坂田　正幸
6	鉾田市観光物産協会 事務局長	橋本　悦幸
7	鉾田市健康づくり財団 常務理事	石﨑　正士
8	鉾田農産物出荷組合長	遠峰　良蔵
9	美食材の街 匠の会会長	畠　　長弘
10	鉾田市 下荒地区長	飯塚　信一
11	鉾田市 岡堀米区長	額賀　　浩
12	鉾田市 副市長	小沼　喜勝
13	鉾田市 政策企画部長	冨田　　茂
14	鉾田市 市民部長	吉川　紀子
15	鉾田市 環境経済部長	長峰　正一
16	鉾田市 建設部長	竹内　正利

【 オブザーバー　】

No.	所属及び役職名	氏名
1	関東地方整備局 常陸河川国道事務所 計画課長	牧野　安伸
2	茨城県 土木部 道路維持課長	杉山　浩康
3	茨城県 土木部 都市整備課長	小沼　志乃武
4	茨城県 鉾田工事事務所長	大和田　尚
5	鉾田市 市民部 市民課長	岡野　知子

資料3

鹿島灘海浜公園拠点化推進検討委員会

委員会資料

第1回
令和8年8月27日(木) 10時から

鉾田市
CITY OF HOKOTA

目次

01 本日の予定

（1）説明事項
- ア. 委員会の進め方
- イ. 現在の状況
- ウ. これまでの検討の経緯
- エ.「道の駅」の概要

（2）協議事項
- ア.「道の駅」の基本計画コンセプト
- イ. 鉾田市にふさわしい「道の駅」のあり方

ア. 委員会の進め方

今年度の委員会の検討

令和8年
8月27日

第1回委員会
- ○これまでの検討の経緯
- ○基本計画コンセプト
- ○「道の駅」のあり方

交通量調査
施設内容及び施設規模の検討

令和8年
10月

第2回委員会
- ○基本計画(素案)について
- ○施設内容及び施設規模について

施設内容及び施設規模の再検討
駐車場概略レイアウト検討

令和8年
冬頃

第3回委員会
- ○基本計画(案)について
- ○駐車場概略レイアウトについて

パブリックコメントの実施

令和9年
春頃
(年度内想定)

第4回委員会
- ○基本計画について
- ○次年度以降の取組方針について

基本計画の策定・公表

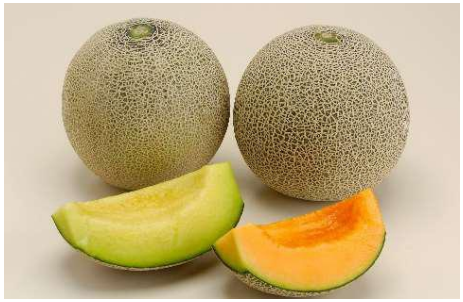
※今後の検討により変更する可能性があります。

イ. 現在の状況

01 鉾田市のプロフィール

面積：２０７.６０km2　人口：４５，３９３人（R8.7.31現在）

　茨城県南東部に位置する鉾田市は、東は太平洋、北は涸沼、南は北浦に囲まれた広大な平坦地を有しています。
　メロン、**イチゴ**、**トマト**、**さつまいも**などは、**全国指折り**の**生産地**と言え、農林水産省の市町村別農業産出額（推計）の「野菜」区分において、**11年連続**で**全国１位**となっています。
　なお、**東関東自動車道水戸線**が、まもなく**全線開通**し、東京・千葉方面からのアクセスの向上が見込まれます。









02 対象地:鹿島灘海浜公園(1)



■名　　称　鹿島灘海浜公園(県営公園)
■所　在　地　鉾田市大竹地内
■開園年月日　H12.3.31
■開 園 面 積　20.6ha
■公園管理者　茨城県
■指定管理者　鉾田市

前面道路（国道）の一定の交通量
・上下線の交通量は、１６，８４５台／日

広域公園としての集客力
・広大な敷地、イベントの拠点として多くの方々が利用

ロケーション
・徒歩で海にアクセスできるロケーション

イ. 現在の状況

02 対象地：鹿島灘海浜公園（2）



ウ. これまでの検討の経緯

01 事業の経緯

令和4年度	鹿島灘海浜公園の一大拠点化（道の駅の設置を視野）に向けて 基礎調査に着手
令和5、6年度	鹿島灘海浜公園拠点化 推進会議 公園拠点化に係る基本構想を策定 「道の駅化」の方針 及び 県と市の役割分担
令和7年度	「道の駅」の設置に関する基礎資料収集
令和8年度	鹿島灘海浜公園拠点化 推進検討委員会の設立 「道の駅」の基本計画の策定に着手

02 県と市の役割分担



海浜部：茨城県が活性化を検討
台地部：市が拠点化事業を検討

▼

〈拠点化の方向性〉
台地部に「道の駅」の設置

03 鉾田市全域(マクロ)と公園(ミクロ)の課題

・マクロとミクロの視点から地域の課題を抽出、解決する方策を考える

(1)鉾田市全域と公園の課題

〇鉾田市全域の視点

・「鉾田の食」などの魅力や知名度が不足
・子育て施設の不足
・記録的な暑さによる健康被害の深刻化
・未曽有の災害の発生
・農業従事者の高齢化と担い手不足

〇公園の視点

・春～初夏以外の来訪減
・前面道路(国道)からの視認性不足
・公園施設の老朽化
・台地部と海浜部の連携
・東関東自動車道の開通に伴う、前面道路(国道)の交通量の減

(2)課題整理

Ⅰ.年間を通じた鉾田市への立ち寄り促進

(特産品の加工・販売、新たなコンテンツの創出等)

Ⅱ.快適な休憩施設整備などの利便性の向上

(トイレ整備や情報発信等の強化)

Ⅲ.公園エリアの価値向上

(ロケーション活用、屋内施設、関係者との連携促進等)

Ⅳ.地域防災力の向上

(備蓄品・倉庫の充実、非常用電源等の整備)

(3)整備目的

地域課題の解決に資する方策として、鹿島灘海浜公園の拠点化(**「道の駅」の設置**)が有効

01 道の駅の機能・役割

○目的

・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供

・地域の振興に寄与

休憩機能	・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
情報発信機能	・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
地域連携機能	・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

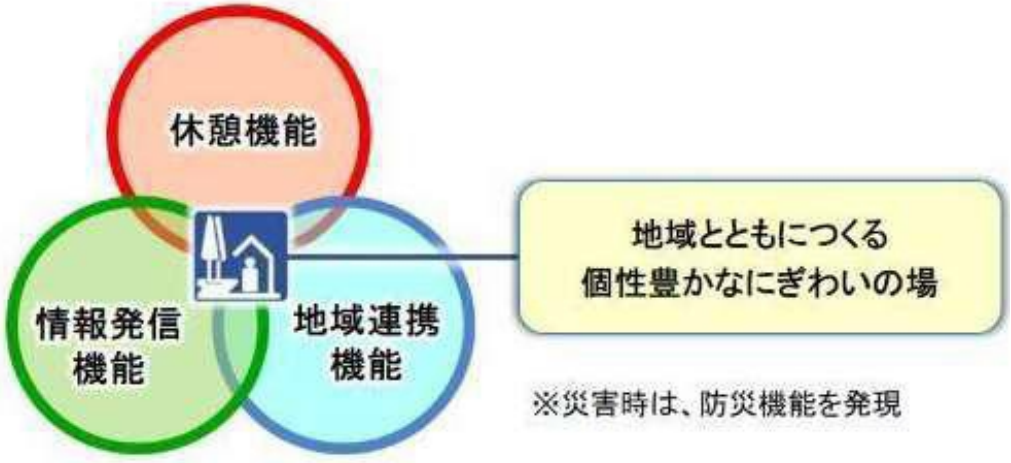


図　道の駅の機能など

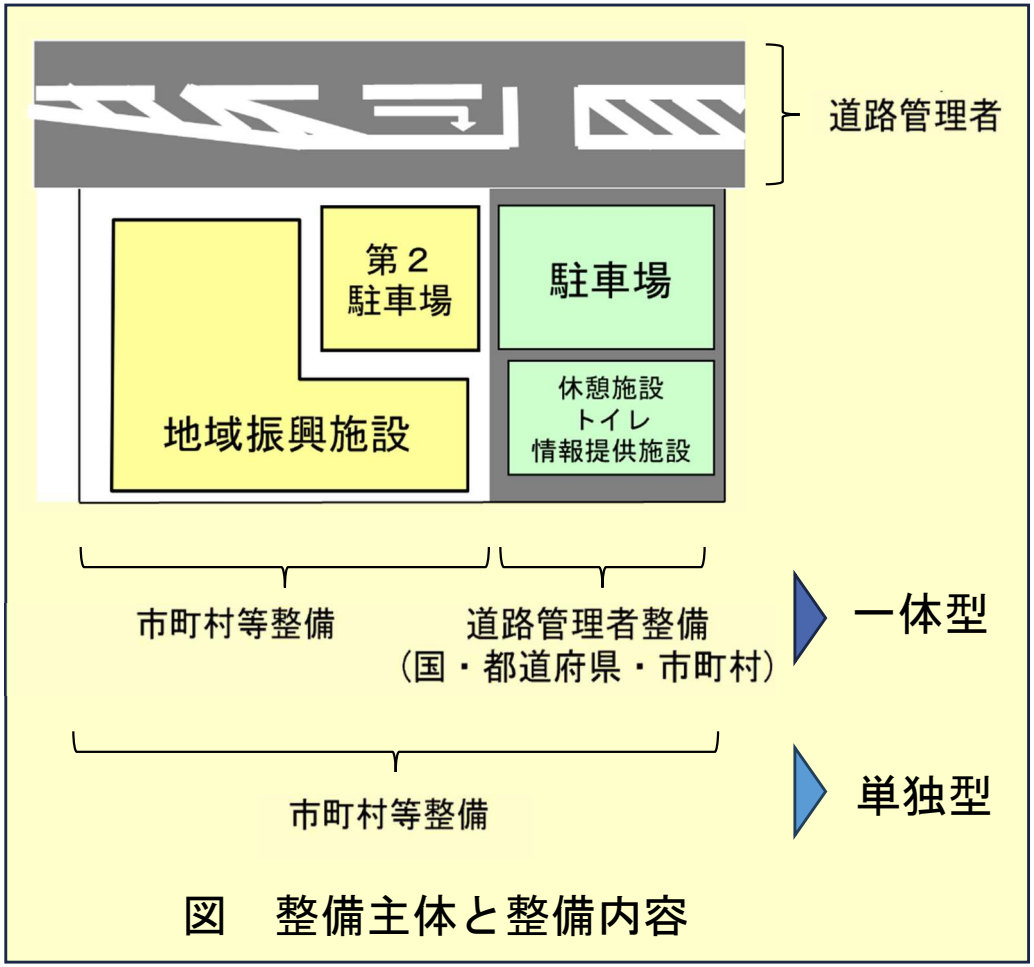


図　整備主体と整備内容

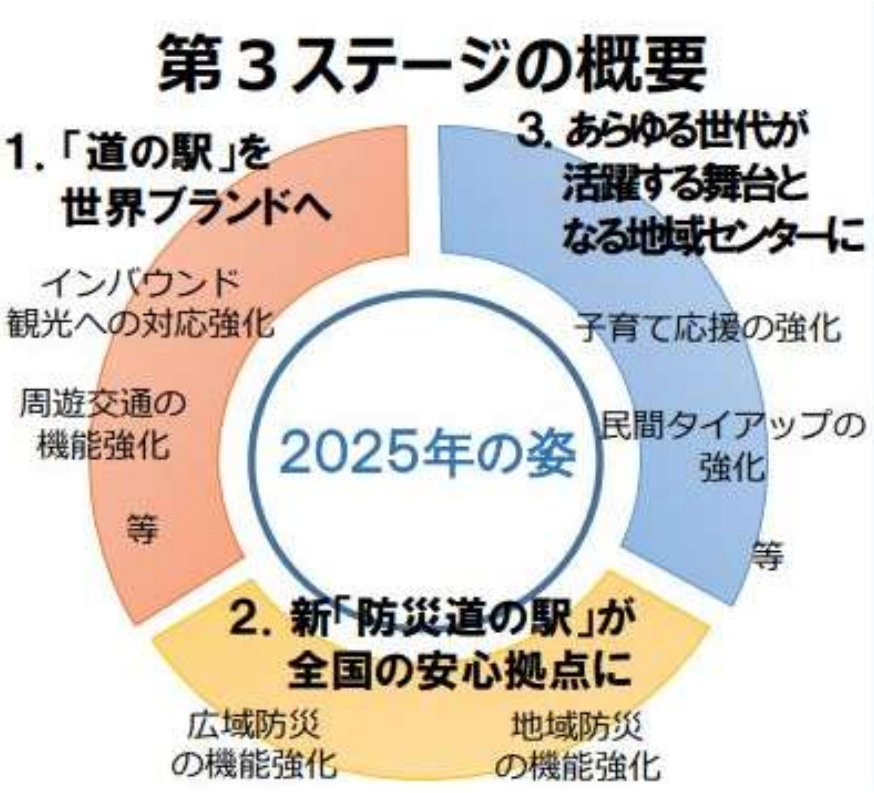
出典：国土交通省道路局資料に加筆

02 「道の駅」の役割変遷

第1ステージ（1993年～）
「通過する道路利用者のサービス提供の場」

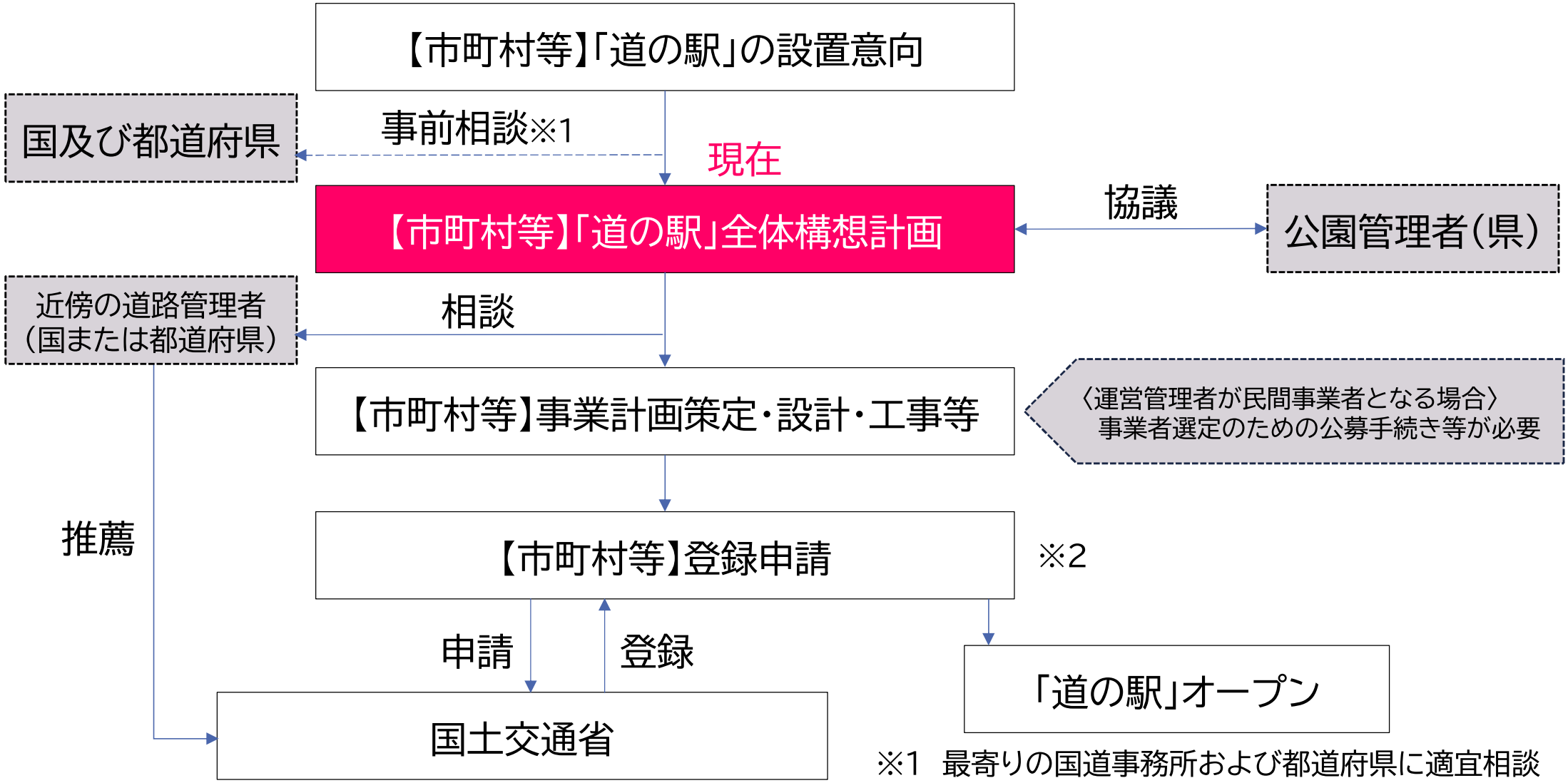
第2ステージ（2013年～）
「道の駅自体が目的地」

第3ステージ（2020年～）
「地方創生・観光を加速する拠点」へ
＋ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献



出典：国土交通省道路局資料

03 「道の駅」の整備フロー



※1　最寄りの国道事務所および都道府県に適宜相談
※2　申請は、各地方整備局を経由

出典：国土交通省道路局資料に加筆

ア.「道の駅」の基本計画コンセプト

01 基本計画コンセプトとは

・事業の基本となる考え方や方向性、存在意義
・具体的な戦略・方針や機能、役割を決めるもの

02 基本計画コンセプト（案）

・課題解決に資する「道の駅」の基本計画コンセプトを設定

案①
鉾田の魅力が集まりつながる交流拠点
～鉾田の魅力や観光、食事、買い物、公園利用、防災など多様な目的を持つ人々が交流する地域拠点～

案②
緑と海のいこいの場
～鉾田の地域資源やロケーションを活かした多様な年齢の人々のオアシスとなるような憩いの場の創出～

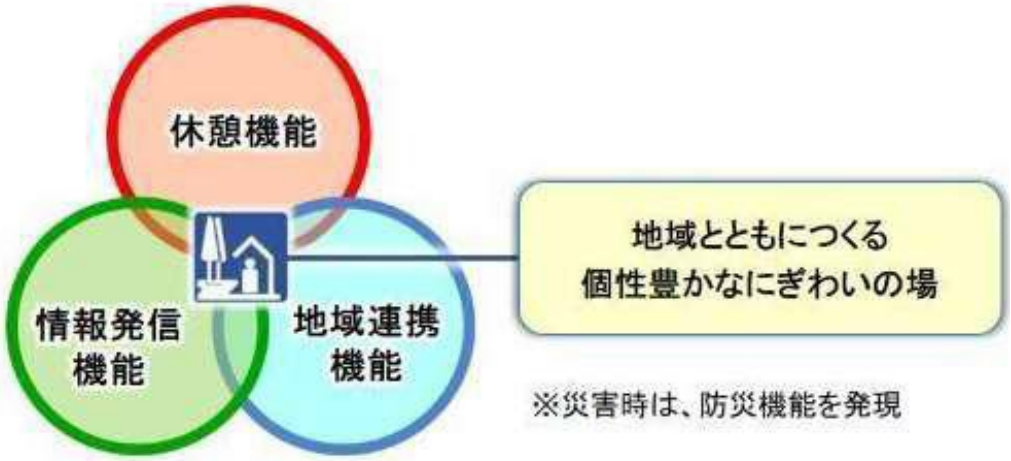
案③
人も地域も元気になる賑わいの場
～鉾田の豊かな資源を活かし、人・地域・周辺施設をつなぎ活力を生み出す拠点～

【参考】笠間彩（いろどり）の里　～笠間の魅力が暮らしと観光を育む～（道の駅かさま）
fun! fun! fun!　～みんなが楽しい道の駅～（道の駅グランテラス筑西）
常総の強みを活かした賑わいの場づくり　～農業を活かしたまちづくり、アグリサイエンスバレー構想の実現に向けて～（道の駅常総）

イ. 鉾田市にふさわしい「道の駅」のあり方

○鉾田市にふさわしい「道の駅」のあり方

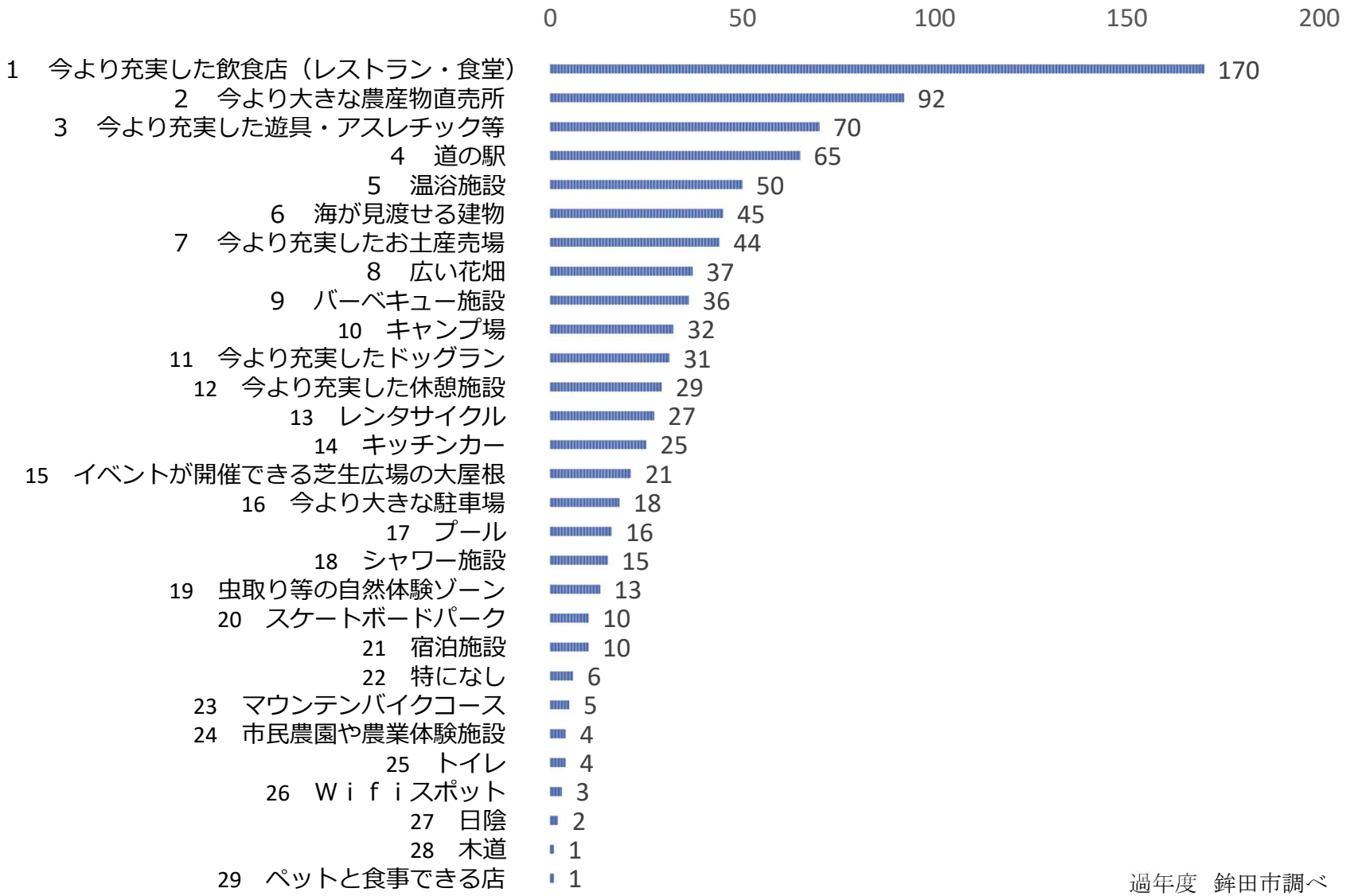
・地域の視点から「道の駅」に期待したい機能、役割





（参考） アンケート結果

Q 鹿島灘海浜公園にどのような施設があれば訪れたいと思いますか。



過年度 鉾田市調べ

道の駅　グランテラス筑西（茨城県筑西市）

北関東最大級の広さ
と多彩な施設

筑波山を臨むロケーション

広々としたイベントスペース









出典：道の駅グランテラス筑西ホームページ

道の駅　かさま（茨城県笠間市）

地域と観光のゲートウェイ
894千人(R7入り込み客数)

日本一の栗グルメ

新鮮な農産物直売所









出典：道の駅かさま資料

道の駅　常総（茨城県常総市）

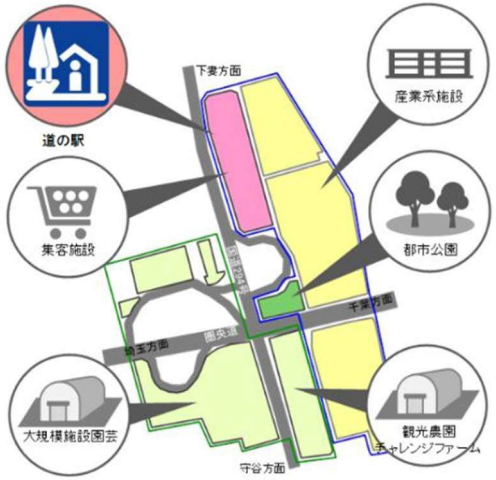
民間運営による高い集客力
3,017千人(R7入り込み客数)

話題を呼ぶ独自グルメ

浸水しない高さに区画かさ上げ







出典：常総市ホームページ

道の駅　小坂田公園（長野県塩尻市）

公園の再生、活性化の再整備

防災機能の維持・強化

遊具の新設・集約化







